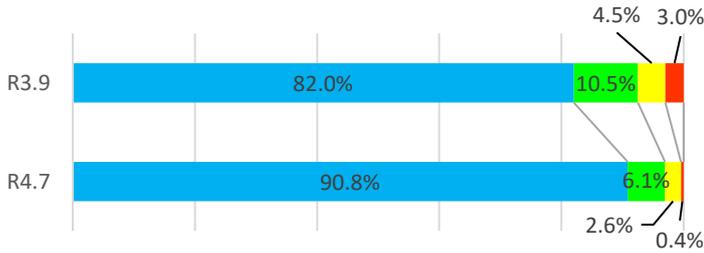


5 研究の成果と今後の課題

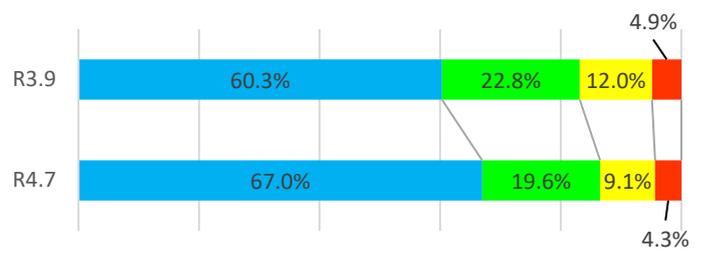
算数アンケートの実施結果

■ はい ■ どちらかといえばはい ■ どちらかといえはいえ ■ いいえ

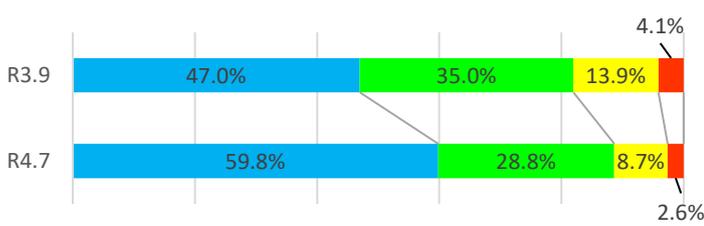
算数の学習は大切だと思いますか。



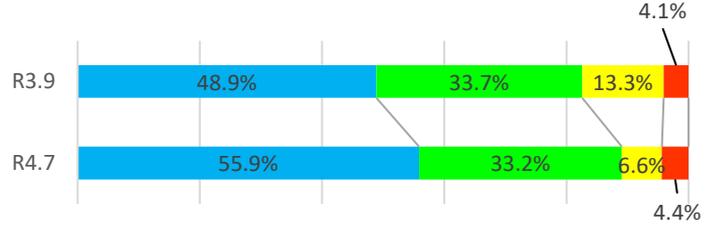
友達に自分のことを話すことは好きですか。



自分の考えを進んで伝えられますか。

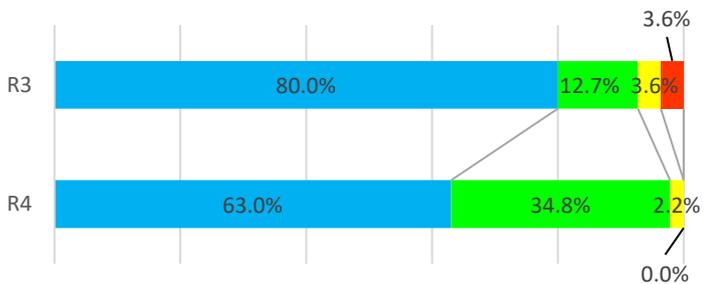


授業で、自分の考えを友達にわかるように発表していますか。



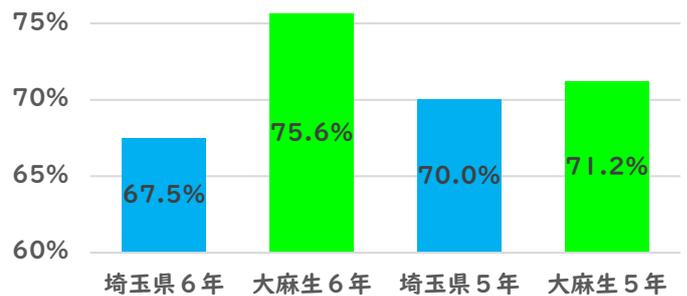
『全国学力・学習状況調査』質問紙から

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



『埼玉県学力・学習状況調査』結果

学力を伸ばした児童の割合（算数）



(1) 研究の成果

- 授業を通して児童が自分の考えの根拠を示したり、順序だてて説明したりすることができるようになってきている。児童も自分の考えを整理したり伝えたりすることに対して前向きになった。
- 授業の初めに既習事項を確認したり見通しを持たせたりする活動を通して、その時間に必要な見方・考え方を捉えさせ、思考力を高めることができた。
- ICTの活用により、自分の考えを式や図、グラフに書き込んだり修正したりしながら説明することができた。これにより考えの違いや共通点の理解が深まり、豊かに思考し表現するための一助となった。
- 算数たしかめテストにより、記述式の問題など、根拠や理由をつけて説明する経験をさせることで、自分の考えを書く際に、式に加えて考えの根拠や数直線、図などを書くようになった。
- 量感を味わわせるような展示や数学的な見方・考え方ができるような階段掲示など、校内環境を整備し、それをもとにした問題に取り組むことで学習の定着を図ることができた。
- 算数の学習が日常生活の中でも活用できることを実感させることにより、更なる学習意欲を向上させることができた。

(2) 今後の課題

- 学力に差があり、自分の考えをもつことが難しかったり、話し合いに参加することが難しかったりする児童がいるので、個に応じた支援の仕方について考えていく必要がある。
- ICTの活用場面について、効果があった場面や効率が上がった場面とそうではなかった場面を精査し、どの場面で活用すべきか見直していく必要がある。

研究主題



自分の思いや考えを豊かに表現し、実践できる麻っ子の育成
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った算数科の授業実践～

あいさつ

校長 山中 和久

本校は、令和3・4年度の2年間、熊谷市教育委員会から学習指導研究校として委嘱を受け、教職員一丸となり、研究推進や実践に取り組んでまいりました。ここに研究の一端を発表させていただきますが、皆様のご指導を仰ぎながらさらに研究を深めて、「21世紀を豊かに生きる麻っ子」を育成してまいります。

結びに、これまでの研究推進にあたり、ご指導いただきました熊谷市教育委員会並びに指導者の先生方に心より感謝申し上げます、あいさつといたします。

研究の概要

1 主題設定の理由

- 埼玉県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査の結果より、本校の算数における理解到達度は一定のレベルに達していることが見受けられる。しかし、問題の種類や傾向に着目すると、思考力を問われる問題やそれに関連する学習内容に課題があることが顕著であることもわかる。そういった自分の考えを整理して表現すること、またそれを活用していく力は、日常的な学習の中で着実に身に付けさせることが望ましい。
- 本校の児童は、答えを導くことはできるが、自分の考えを、筋道を立てて説明したり、図やグラフで表現したりすることが苦手である。ICTの特長を生かし、より分かりやすく理解が深まる説明ができるように研究を進めていきたい。

2 研究仮説

- 仮説1** 算数の授業の中で数学的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力等を身に付けることで、豊かに思考し表現できる児童が育つであろう。
- 仮説2** ICT機器を効果的に活用し、児童の思考を活性化させることで、豊かに思考し表現できる児童が育つであろう。

3 研究構想

学校教育目標
知・徳・体のバランスのとれた学力を身に付け、21世紀を豊かに生きる児童の育成

自分の思いや考えを豊かに表現し、実践できる麻っ子の育成
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った算数科の授業実践～

授業の中で、また授業を通して実践する事ができる児童を育成していく

自分の思いや考え
・数学的な見方・考え方を働かせる
・問題の答えにたどり着くまでの過程を示す

豊かに表現

- ・考えの根拠を示す
- ・筋道立てて説明する事ができる
- ・式の他に図、数直線、グラフなどで表現できる

実践できる

- ・授業中に発表ができる
- ・ノートにまとめる事ができる
- ・問題を解く事ができる
- ・生活の中で使える力をつける

主体的・対話的で深い学び

- ・解決の見通しを持たせる（既習事項の活用、根拠など）
- ・振り返りの時間の確保する
- ・ラウンドシステムの考えを生かす
- ・他者の考えを読む活動を取り入れる
- ・式の意味、不完全な説明の補完することができる
- ・本時の学習で働かせる見方・考え方を明確にする

学びの土台



熊谷の子どもたちは、これができます！
『4つの実践』と『3減運動』

「新熊谷プロジェクト」
ラウンドシステムの授業 10のポイント

スマホ使い方宣言